

# 広い視野を活かした判断力・表現力の育成

石田了子

社会科 小山均

西野哲之

## 1. テーマ設定にあたって

今年度、社会科としてつきたい力を、昨年度と同様に、グローバルな見方とローカルな見方、両方の見方をもとに、さまざまな場面において判断・選択できる力とし、また、昨年度の反省より、テーマを「広い視野を活かした判断力・表現力の育成」とした。広い視野とは、国際社会や地球規模の見方のみならず、自分の住む身近な社会に目を向けることも指していると考ええる。

これらの力を身につけるための場として、「他者理解力と自己表現力を育成する場面」を授業において設定し、昨年度までは、特に異学年交流授業を重点的に行ってきた。例えば、環境についての問題を、3年間の学習を積み重ねてきた上級生の視点と、身近な学習を身につけた下級生の視点とを融合させて考える場を設定した。また、これまでに本校卒業生の多くが進学する附属高校の先生方と相互に授業参観を行ってきた。このような経過をふまえて、今年度は異学年交流授業より発達段階の差が大きい異校種間交流授業を検討し、教師間では授業参観などで交流のあった附属高校との具体的な交流を進めることとした。

## 2. 研究実践について

### (1) 同学年における授業において

新学習指導要領解説社会編では、改訂の基本的な考え方として、思考力・判断力・表現力等の育成の重要性について述べている。また、改訂の要といわれている「言語活動の充実」に関しては、歴史的分野において「自分の言葉で表現する」という言葉が何度か出てくる。日常の同学年における授業では、このことに重点をおいて進めてきた。

### (2) 交流授業について

附属高校との交流授業を進めるにあたって具体的には、次の2つのことを進めていくこととした。

1つ目は、本校社会科年間指導計画と附属高校カリキュラムとの対応表を作成した。これは、中学校と高校で学習内容の重なっている単元について効果的、計画的に指導するためである。社会科のページの最後に載せることとする。

2つ目は、中学校の各学年の学習内容に該当する高等学校の授業を、中学生が参観するということである。昨年度本校研究発表会の講演会において、滝充先生（国立教育政策研究所生徒指導研究センター統括研究官）は「異学年交流が成功するには一般的に年の差が大きいほどよい。ある活動について先行経験がありよく知っている先輩がよく知らない後輩に教えることができるからである。教える側と教えられる側の差が大きいほどよい。」とお話されていた。とすると、高校生と中学1年生との交流が理想的である。しかし、社会科（高校では世界史、日本史、現代社会、地理）においては、高校生の授業内容が中学1年生にとっては難しすぎるのではないかという、附属高校の先生方の御意見もあった。そこで、10月に次のような形で、中学生が高校生の授業参観をさせていただいた。

① 中学2年生の1クラスが、高校2年生地理Aの「イギリス」の授業を参観する。

② 中学3年生の1クラスが、高校2年生地理Aの「日本」についての授業を参観する。

次は、これらの実践についてである。

### 3. 交流授業についての実践 ～高校の授業を生徒が参観をさせていただいて～

(1) 中学2年生の1クラスが、高校2年生地理Aの「イギリス」の授業を参観する。生徒の感想より。高校の授業を体験して、生徒の感想には次のようなものが見られた。

○高校の授業に登場した、中学校で学習したことについて、

- ・イギリスは植民地を多く持っていたこと。
- ・イギリス労働党について。
- ・イギリスで世界最初の産業革命が起こったこと。
- ・国旗にユニオンジャックがついている国はイギリスと関係が深いこと。
- ・インフレーションについて。
- ・第一次世界大戦について。
- ・石油危機について。
- ・ヨーロッパの地形について。

○授業の進め方について

- ・授業の内容が中学校とは比べものにならないくらい難しかった。
- ・授業のスピードが速く、メモを取るのが大変だった。
- ・細かいところまで学習していて、難しそうだったが、映像、新聞、映画の話などで分かりやすくなっていた。
- ・授業のテンポが良かった。
- ・高校の授業がこんなにもおもしろいのかと驚いた。
- ・授業の内容がとても難しく、英語もまじっていたこと。
- ・黒板を使わずに、パワーポイントで授業が進んでいたこと。
- ・授業を聞いていて飽きなかった。
- ・中学校で学習したことは当然知っているという前提で授業が進められていると感じた。
- ・中学校とは全然レベルが違うと思いました。
- ・たくさんの資料を使っていること。

○高校生の授業態度で感心したことについて

- ・私語がなく、集中していた。
- ・質問に対して的確に答えていた。
- ・外国語の慣用句を理解していた。
- ・とても静かに授業を聞いていたところ。
- ・授業中に緊張感を持っていたところ。
- ・テンポの速い授業について行っているところ。
- ・事前に授業の内容を調べている人がいた。

(2) 中学3年生の1クラスが、高校2年生地理Aの「日本」の授業を参観する。生徒の感想より。

高校の授業参観を体験して、生徒の感想には次のようなものが多かった。

○高校の授業中に登場した、中学校で学習したことについて。

- ・人口ピラミッド つば型
- ・ドーナツ化現象
- ・太平洋ベルト
- ・高度経済成長
- ・過疎化
- ・石油危機
- ・バブル崩壊
- ・屯田兵

○授業の進め方について。

- ・授業の内容が深い。
- ・授業のスピードがはやくて、すごいなあと思った。
- ・難しい内容で、予習しないとついていけないと思った。
- ・先生は、前の授業内容を生徒が理解していることを前提に進めている。高校生も覚えていた。
- ・先生の説明を、高校生が自分でしっかりノートにまとめて、整理していた。
- ・一つのことについて詳しく学習するので、だんだん興味がわいてきた。

○高校生の授業態度で感心したことについて。

- ・全員が真剣に、食いつくように先生の話に聞きいていた。
- ・私語がない。ペン回しをしている人がいない。休憩時間との切り替えがすごい。
- ・地理の内容を、すぐに歴史の内容に結びつけていたところ。
- ・地理なのに、歴史や公民で学んだ内容が出てきてびっくりした。
- ・集中力を保っていた。長い間勉強してきて身につけた技なのかと思った。
- ・緊張感が漂っていた。
- ・先生が質問したとき、中学校の授業では（中学生は）答えられない場合が多いけれど、高校生はすぐに誰かが答えていた。
- ・これだけ多くの内容を予習・復習している高校生はすごいなあと思った。
- ・わからない語句は、すぐに電子辞書で調べていた。
- ・中学校の授業の雰囲気と全く違って、そんな授業に参加させてもただただとてもうれしい。私もあと1年もたたないうちに高校生となるが、自分で自分が心配になりました。自分があんな風に授業する姿は思い浮かばない。

以上のように、初めての高校の授業を体験して、多くの生徒はその進度の速さと内容の深さ・難しさに驚きながらも、高校の先生による説明の「わかりやすさ」をあげている。例えば「全然理解できないのではないかと不安だったが、だいたい理解できた。」「おもしろかった。」「興味深かった。」「退屈しなかった。」という感想などである。このことは、先生方の、高校生の興味を持続させる工夫、深い教材研究を示すも

のである。高校生が、中学生よりも多くの知識をもち、中学生よりも高度な思考力をもつということに頼るのではなく、高校生の現状をよく把握され、授業を組み立てているのではないかと考える。生徒一人一人の顔を思い浮かべて授業を立案していくことの大切さを改めて感じた。

生徒で中学2年生は難しいという感想が多く目立ったが、中学3年生は「自分たちが習ってきたことは、高校では基礎の基礎でしかない。」「中学校の内容ができていないとついていけないと実感した。」「今のうちに基礎をかためておきたい。」というものが多くあった。中学校で学ぶことは基礎であるが、その基礎の上に、高校において積み上げていくことを中学校の教師が認識し、指導していくことが大切であると痛感する。「言葉が難しくなっただけで、内容はあまり中学校で学ぶことと変わらなかった。やればできるレベルだと思った。」「中学校で習ったことを基本に、さらに発展した内容について勉強していることがわかった。」という生徒の感想は、高校の授業は大変だと感じたが、中学校でしっかりと頑張れば私たちも高校でやっていけるという意識を持ったことを示している。このような感想を書いた生徒は少ないが、増えるように中学校における授業を考えていく必要がある。

#### 4. 成果や課題

今年度は、附属高等学校カリキュラム対応表を作成した。中学校で学んだ歴史的分野の内容を高校の日本史・世界史において、中学校で学んだ公民的分野の内容を高校の現代社会において、更に広く、深く学ぶこととなる。中学校で学んだ知識や探究したことに関して、高校の先生方に効果的に活用していただけるよう伝えていくことも有効であると考え。そして、どの分野や単元での交流が中学生と高校生にとって有効かを考え、相互の授業参観や交流授業を持続することにつなげていきたい。歴史的分野・公民的分野に対して地理的分野の内容は、高等学校では取り扱わないものもある。特に、地球儀・地図の基本的な見方、時差の求め方、世界の諸地域・国名などについてや、身近な地域の調査を扱う単元の内容は、中学校においてしっかりと身につけさせ、高校の学習へとスムーズにつなげていく必要があると再認識した。

次に、社会科のテーマ「広い視野を活かした判断力・表現力の育成」に関して、高校との交流を整理する。高校の授業においては、中学校社会科で学んだことや新しい知識を、更に深く広く扱い、それらが高校生の社会的事象に関する思考・判断・表現力を伸ばすことにつながっているようである。このように鍛えられた思考・判断・表現力を持つ高校生から、中学生がアドバイスをもらう場面を取り入れた授業づくりに今後は取り組んでいきたいと考える。例えば、環境問題について中学生が考え、まとめたレポートに対して、高校生からアドバイスをもらうというものである。このようなことを目標に交流を進めていきたい。

2008年度 社会科 第1学年 年間指導計画（附属高等学校カリキュラム対応表）

月	中学校 単元	学 習 内 容	高等学校 単元	学 習 内 容
4月	地理 第1編 世界と日本の地域構成 第1章 地球のすがた	①地球のすがたを見てみよう ②地球上の位置 ③経度・標準時・時差 ④地球儀と地図のちがいを知ろう		
5月	第2章 世界のすがたとさまざまな地域	①世界の国々と地域区分 ②世界の国々を知ろう ③世界の略地図をえがいてみよう		
6月	歴史 第1章 歴史の流れ	・テーマ設定・計画書作成 ・レポート作成 ・発表・まとめ		
7月	歴史 第2章 古代までの日本 (1)文明のおこりと日本の成り立ち  (2)古代国家の歩みと東アジア世界	①人類の出現と日本列島 ②文明の発生と東アジア世界 ③縄文文化と弥生文化 ④国々の誕生と古墳文化 ⑤大王の時代  ①大化の改新への道のり ②律令国家の成立 ③奈良時代の人々の暮らし ④国際的な文化の開花 ⑤平安京の摂関政治 ⑥文化の国際化	日本史B（3年） 1 日本文化の黎明  2 古代国家の形成と展開	①旧石器時代・縄文時代における人々の生活  ①水稲農耕の本格化と政治的統合体の形成 ②古代国家の形成 ③東アジア世界の確立と古代国家の形成・展開 ④古代文化の展開 ⑤東アジア世界の解体と古代国家の変容
9月	歴史 第3章 中世の日本 (1)武士の台頭と鎌倉幕府  (2)東アジア世界のかかわりと社会の変動	①武士の成長 ②武家政権の成立 ③武士と民衆の動き ④鎌倉時代の宗教と文化  ①モンゴルの襲来と日本 ②南北朝の動乱と東アジアの変動 ③室町幕府と経済の発展 ④民衆の成長と戦国大名 ⑤室町文化とその広がり①	3 中世社会の展開と文化	①荘園・公領制の成立と武士の成長  ②武家政権の成立と中世社会の展開  ③武家政権の変容と民衆
10月	地理 第3章 日本のすがたとさまざまな地域	①日本の位置を調べよう。 ②日本の広さを調べよう。 ③日本をいくつかの地域に分けよう。 ④都道府県を確かめてみよう。 ⑤いろいろな視点から都道府県をながめよう。 ⑥日本の略地図をえがいてみよう。		
11月	地理 第2編 地域の規模に応じた調査 第1章 身近な地域の調査	①身近な地域を見直そう ②調査テーマを決め、見通しを立てよう ③いろいろな方法で調査活動しよう ④調査結果をまとめ、発表しよう		
12月	第4章 近世の日本 (1)ヨーロッパ人との出会いと全国統一	①ヨーロッパ人と世界進出 ②ヨーロッパ人との出会い ③織田信長・豊臣秀吉による統一事業 ④兵農分離と朝鮮侵略 ⑤桃山文化	世界史B（3年） 9 近代ヨーロッパの成立  日本史B（3年） 4 近世社会の展開と文化	①織豊政権の成立と幕藩体制の成立  ②産業経済の発展と近世農村・都市  ③近世社会の変容・国際環境の変化  ④近世文化の展開と諸学問の発展
1月	(2)江戸幕府の成立と鎖国	①江戸幕府の成立と支配のしくみ ②さまざまな身分とくらし ③貿易の振興から鎖国へ ④鎖国下の対外関係		
2月	(3)産業の発達と幕府政治の動き	①農業や諸産業の発達 ②都市の繁栄と元禄文化 ③享保の改革と社会の変化 ④幕府政治の改革 ⑤新しい学問と化政文化 ⑥外国船の出現と天保の改革		
3月	第2章 都道府県の調査 (1)多面的に調べよう。	①課題を探そう ②テーマの決定 ③発表とまとめ		
	(2)比較や関連の視点から調べよう。 ～東京との比較・関連～	①石川県との比較 ②産業の特色について調査の計画 ③調査 ④発表とまとめ		

2008年度 社会科 第2学年 年間指導計画 (附属高等学校カリキュラム対応表)

月	中学校 単元	学 習 内 容	高等学校 単元	学 習 内 容
4月	地理 (第2編) 第3章 世界の国々の調査 (1)ガイダンス① (2)アメリカ合衆国の調査⑥	①自然の特徴 ②民族と文化 ③農業の特徴 ④工業の特徴 ⑤世界の中のアメリカ ⑥多面的に捉えよう	地理A (2年) 2 アメリカの特質	①アメリカ法文化 ②アメリカの繁栄と大衆社会の成立 ③アメリカ経済の諸相
5月	(3)フランス調査⑦	①調査計画 ②③④調べ活動 ⑤⑥まとめ活動 ⑦グループ発表		
6月	歴史 第5章 開国と近代日本の歩み (1)欧米の進出と日本の開国⑤	①近代革命の時代 ②産業革命と欧米諸国 ③ヨーロッパのアジア侵略 ④開国と不平等条約 ⑤江戸幕府の滅亡	世界史A (1年) 1 ヨーロッパ・アメリカの諸革命 2 アジア諸国の変貌と日本	
7月	(2)明治維新⑧	①新政府の成立 ②維新の三大改革 ③文明国をめざして ④近代的な国際関係 ⑤⑥⑦専制政治への不満 (合意形成) ⑧立憲国家の成立 ①調べ学習の流れ 等	日本史A (2年) 1 近代国家の発足 2 明治憲法体制の形成	①開国と幕末の動乱 ②明治維新改革  ①自由民権運動 ②明治憲法体制
9月	第5章 開国と近代日本の歩み (3)日清・日露戦争と近代産業⑥	①植民地獲得競争と東アジア ②日清戦争 ③日露戦争 ④韓国と中国 ⑤産業革命の進展 ⑥近代文明の形成	3 日清・日露戦争  世界史A (1年) 4 二つの世界戦争と平和	①日清戦争と政治経済 ②日露戦争と日本帝国主義
10月	第6章 二度の世界大戦と日本 (1)第一次世界大戦とアジア・日本⑥	①第一次世界大戦と日本 ②国際協調の時代 ③アジアの民族運動 ④大正デモクラシー⑤民衆運動の高まり ⑥新しい生活と文化	日本史A (2年) 4 大正デモクラシーと帝国主義	①第一次世界大戦と日本帝国主義 ②大正デモクラシー
11月	第6章 開国と近代日本の歩み (2)世界恐慌と日本の中国侵略④	①世界恐慌とブロック経済 ②欧米の情勢と日本 ③日本の中国侵略 ④日中全面戦争	5 十五年戦争	①昭和恐慌・満州事変 ②日中戦争・太平洋戦争
12月	(3)第二次世界大戦とアジア③	①第二次世界大戦 ②戦時下の生活 ③戦争の終結		
1月	第3編 世界から見た日本のすがた 第1章 さまざまな面から見た日本 (1)日本の自然環境⑤	①変化に富む世界の地形 ②日本の地形 ③④世界から見た日本の気候 ⑤自然災害と人々の暮らし		
2月	(2)日本の人々の暮らし④	①豊かさ暮らし ②暮らしの変化と進む国際化 ③古都・京都に見る生活文化 ④独自の生活文化を持つ沖縄		
3月	第1章 さまざまな面から見た日本 (3)世界と日本の人口④	①世界の人口分布とその推移 ②世界と日本の人口構成 ③④かたよる日本の人口分布		
3月	(4)世界と日本の産業・資源⑤	①世界の資源と日本 ②変化する日本の農業 ③世界と日本の林業と漁業 ④工業立国・日本の特色 ⑤発展するさまざまな産業 ⑥国際化時代の産業と環境		
3月	(5)広がる地域間の結びつき④	①密接につながる日本と世界 ②世界と日本の貿易 ③広がる日本の交通・通信網 ④交通がもたらす地域の変容		
3月	第7章 現代の日本と世界 (1)日本の民主化と国際社会への参加③	①占領と日本の民主化 ②二つの世界とアジア ③国際社会に復帰する日本	6 現代の日本	①戦後民主化 ②冷戦構造化の日本 ③冷戦解体後の日本
3月	(2)国際社会と日本③	①日本経済の発展 ②国際関係の変化 ③21世紀の世界と日本		
3月	第2章 関連づけてみる日本の特色⑤	①多様な特色を持つ日本 ②外国人旅行者に日本をわかってもらおう ③日本旅行のプランをつくってみよう ④関連づけと重ね合わせて見る日本の特色 ⑤地域区分に挑戦		

2008年度 社会科 第3学年 年間計画 (附属高等学校カリキュラム対応表)

月	中学校 単 元	学 習 内 容	高等学校 単 元	学 習 内 容
4月	公民を学ぶにあたって			
5月	第1章 現代社会とわたしたちの生活	①現代社会を探ってみよう ②電化製品が家庭に普及 ③食生活の変化 ④変わってきた生活と職業 ⑤情報社会と私たちの暮らし ⑥パンダが日本にやってきた ⑦多文化社会に生きる ⑧まとめと発表をしよう		
6月	第2章 人間の尊重と日本国憲法 1 個人と社会生活	①家族と社会生活 ②わたしたちと社会生活	現代社会(1年) 3 憲法9条問題を考える	
7月	2 人権と日本国憲法	①人権を考えよう ②人権の歴史と日本国憲法の制定 ③日本国憲法の基本原理 ④基本的な人権と個人の尊重	政治・経済(3年) 第1編 第2章 日本国憲法と民主主義	①日本国憲法とその基本原理 ②基本的人権の本質と法の下の平等
9月	3 人権と共生社会	①ともに生きるⅠ ②ともに生きるⅡ ③共生社会への参加 ④自由に生きる(自由権) ⑤豊かに生きる(社会権) ⑥人権保障を確かなものに ⑦社会の発展と新しい人権 ⑧国際社会と人権		③自由権 ④社会権と新しい人権
10月	第3章 現代の民主政治と社会 1 現代の民主政治	①人々の意見を政治に生かす ②民主主義とは ③選挙のしくみと課題 ④政治参加と世論 ⑤政党と政治	第1章 民主政治の基本原理  第3章 現代政治の現状と課題	①民主主義の原理と人権思想 ②民主政治の仕組み  ①選挙制度と世論 ②政党政治と圧力団体
11月	2 国の政治のしくみ	①議会制民主主義と国会 ②国会のはたらき ③行政と内閣 ④現代の行政 ⑤法を守る裁判所 ⑥裁判の種類と人権 ⑦三権の抑制と均衡	第2章 日本国憲法と民主主義	⑤国会の地位と権限 ⑥内閣の地位と権限 ⑦裁判所の地位と権限
12月	3 地方の政治と自治	①私たちと地方自治 ②地方分権と住民参加 ③地域づくり ④まちづくりを調べる ⑤わたしたちと日本の政治		⑧地方自治のしくみ
1月	第4章 わたしたちの暮らしと経済 1 わたしたちの生活と経済	①ハンバーガーショップの経営者になってみよう ②消費と貯蓄 ③消費者の権利と保護 ④流通のしくみ ⑤生産のしくみ	現代社会(1年) 2 バブル経済の発生と崩壊	①バブルの誕生 ②バブル崩壊
2月	2 市場経済と金融	①市場経済のしくみ ②市場と価格 ③金融のはたらき ④働く人たちの生活向上	政治・経済(3年) 第2編 1 経済社会の変容と現代経済の仕組み	①資本主義経済の成立と発展 ②現代の企業と市場 ③国民所得と景気変動 ④金融と財政の仕組みと働き ⑤戦後の日本経済 ⑥中小企業・農業・消費者問題 ⑦資源エネルギー問題と環境・公害問題
3月	3 国民生活と福祉	①政府の仕事と租税 ②財政のはたらき ③社会保障と国民の福祉 ④公害の防止と環境保全 ⑤日本経済の課題		
3月	第5章 地球社会とわたしたち 1 国際問題と地球市民	①地球市民をめざして ②資源・エネルギー問題 ③地球環境問題を考える ④アジアの森林と日本 ⑤人口・食料問題	現代社会(1年) 1 現代の環境・資源問題	①現代の環境問題 ②地球温暖化 ③人口問題 ④エネルギー問題
3月	2 国際社会と世界平和	①地域主義の動き ②地域紛争と民族問題 ③主権国家と国際社会 ④国際連合のしくみとはたらき ⑤世界平和の実現 ⑥よりよい世界のために	政治・経済(3年) 第1編 第4章 国際政治と日本	①戦後国際政治の動向 ②国際政治と国際法 ③国際連合の役割 ④核・軍縮問題 ⑤現代の世界と紛争
	3年間のまとめ			